

日本宗教学会
第 71 回 学術大会

2012 年 9 月 7 日～9 日

皇學館大学

【7日会場】 6号館 621 教室 【8・9日会場】 6・7号館内

「お知らせ」と「お願い」

1. 受付手続きの際、必ず名札をお受け取り下さい。名札は、常に身に付け、お帰りの際にはご返却下さい。
2. 受付には、学会本部が出張しております。学会費未納の方はお納め下さい。
3. **発表題目、パネル構成員の変更は一切認められません。**プログラムと同一にしてください。
4. 発表者は、発表の2番前に、発表会場の「発表者待機席」においで下さい。
 - ・申し込み時に、パソコン用プロジェクタの使用を申請された方へ
 - 個人発表は発表の2人前、パネル発表は開始20分前までに、会場係にお申し出下さい。
5. 発表時に配布する資料は、余裕をもってご用意の上、会場係にお渡し下さい。
6. **発表時間は以下のように構成されます。時間厳守でお願いします。**
 - ・個人発表 発表15分、質問5分、計20分（初鈴13分、二鈴15分、三鈴20分）
 - ・パネル発表 「発表者数×5分」をフロアからの質問時間として確保下さい。
それ以外の時間配分は、パネル運営者にお任せします。
7. 発表会場間の移動、及び、プロジェクタの設置に時間が必要なことを加味して、個人発表終了後に5分間の休憩時間を設けています。この5分間を議論の延長などに使うことのないようお願いいたします。
8. 万が一、発表の取り消しがあった場合でも、その後の発表を詰めて行うことなく、予定時間通りに発表して頂きます。
9. **個人発表のレジュメ（表紙・本文）の紙原稿・電子データについて**
24頁「レジュメ作成と提出の注意」に従って作成した紙原稿を、9月9日午後2時までに、部会責任者に提出して下さい。電子データは、24頁「電子データの提出方法」に従って、ご提出下さい。
10. **パネル発表のレジュメ（表紙・本文）の紙原稿・電子データについて**
24頁「レジュメの作成と提出の注意」に従って作成した紙原稿を、代表者がとりまとめて、9月9日午後2時までに、部会責任者に提出して下さい。
電子データも、代表者が全員分をとりまとめて、9月14日までに、メールで、学会事務局に送信して下さい。
代表者は、「パネルの主旨とまとめ」（40字×40行）と「パネルの欧文タイトル」を、9月20日までに、学会事務局にご送信下さい。
11. 日本語が母語でない方へ **レジュメ（本文）は、必ず、日本語上の精査を受けた上で、ご提出下さい。**
12. 所定の場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

受 付	7・8・9日	6号館 2F 通 路
会員休憩室	7・8・9日	6号館 1F ラウンジ
ク ロ ー ク	7・8・9日	622 教室（6号館2F）
学 会 本 部	7・8・9日	753b 教室（7号館5F）
大会実行委員会本部	7・8・9日	622 教室（6号館2F）

大会日程

9月7日（金）

学会賞選考委員会	752a 教室（7号館5 F）	12:30～13:30
情報化委員会	752b 教室（7号館5 F）	13:00～14:00
庶務委員会	751a 教室（7号館5 F）	13:00～14:30
国際委員会	751b 教室（7号館5 F）	13:00～14:00
開 会 式	621 教室（6号館2 F）	14:30～14:40
公開シンポジウム テーマ「ためされる宗教の公益」	621 教室（6号館2 F）	14:40～17:40
パネリスト	稲場 圭信（大阪大学） 岡田真美子（兵庫県立大学） 小原 克博（同志社大学） 鈴木 岩弓（東北大学）	
コメンテータ	中牧 弘允（国立民族学博物館）	
モデレーター	櫻井 治男（皇學館大学）	
理 事 会	大会議室（9号館5 F）	18:00～20:30

9月8日（土）

研究発表（個人）	7号館内 各会場	9:00～12:40
評議員会	621 教室（6号館2 F）	12:40～14:00
研究発表（個人、パネル）	7号館内 各会場	14:00～16:00
会員総会	621 教室（6号館2 F）	16:20～17:40
懇 親 会	倉陵会館	18:00～20:00

9月9日（日）

研究発表（個人）	6・7号館内各会場	9:00～12:15
編集委員会	751a 教室（7号館5 F）	12:15～13:00
プログラム委員会	751b 教室（7号館5 F）	12:15～13:00
研究発表（個人、パネル）	6・7号館内各会場	13:15～16:10

開催校からのお知らせ

日本宗教学会会員の皆さま、本年度の学術大会へご参加いただくにあたり、開催校としてお知らせしておきたいことがございます。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

- 1) 今回のプログラムでは試みとして各部会に部会名を付けております。これは研究発表の内容をもとに分類したものではありません。大会参加者が研究発表を聴くためのひとつの道標として実行委員会にて仮に付けたものです。参考にしていただければ幸いです。
- 2) 会場には、大会参加者用の駐車場はございませんので、自家用車での来場はご遠慮願います。なお、会場へのアクセスについては27頁の通りですので、ご参照ください。
- 3) 昼食は、^{そうりょう}倉陵会館（27頁・大学構内案内図参照）1Fの食堂「U's kitchen」および2Fの食堂「い～菜」（11:00～14:00）をご利用ください。なお、大学周辺には飲食店が少ないので、ご承知願います。
- 5) 自由に使用できるコピー機は設置しておりませんので、配布資料などは予めご自分でご用意ください。
- 6) クロークでは、お荷物をお預かりする用意はございますが、貴重品・衣服については預かりかねますので、ご容赦ください。
- 7) 台風などにより開催状況に変更が生じた場合は、大会ホームページとツイッターを通じてお知らせします。

公開シンポジウム

「ためされる宗教の公益」

不特定多数の利益をもたらすという観点から宗教の公益性が説明されることがある。しかし、それに対して、現実には救いにしても、癒しにしても、多くの場合、関わりのある特定の信者への利益にしかっていない、という批判もある。

宗教といっても千差万別であり、種々の異なる宗教がその置かれた社会環境の中で救済活動を行ったり、神仏に思いを起こさせたり、現世利益をもたらしたりといった宗教的役割を果たしてきた。また、潜在的にはあるが、微力ながらも人々の心を安定させるとか、結びつきを強めるとかいった役割も有してきた。一つの宗教はそれ自体では及ぼす影響の範囲が狭く、不特定多数の者に利益をもたらすことはできないが、各々固有の特色をもつ宗教が同様のはたらきをすることによってトータルな意味での宗教の公益と見ることもできよう。

本シンポジウムでは3・11震災後、復興に向かって各地で明るい動きがあるなかで、災害のその時に臨んだ宗教、あるいはまた復興の時に臨んでいる宗教の社会的役割を“公益”という観点からあらためて問いかけてみたい。くり返される震災や頻繁に起こる風水害、それからの復興など、非常の事態、ぎりぎりの状況下において宗教には何ができ、何ができなかったのか。被災地では在来の諸宗教や外からの宗教ボランティアはどう機能し、どのように受け止められたのか。宗教的使命感から動いた人々にジレンマはなかったのか。災害復興の過程で宗教はどのような位置を占めるのか。宗教の祈りは災害下にある社会や復興しつつある社会の中でどのような意味をもちうるのか。度重なる自然災害を経験してきた人々は、供養や神事芸能といった伝統的な宗教的営みの中に災害を語り継ぐ後世へのメッセージを残してはいなかったか。さらに、復興にあたり、人々は自然環境にいかなる倫理性をもって向き合おうとしているのか。

そもそも信仰は個人的なもので、宗教に公益を求めるべきではない、とする見方もあるが、ここ数年来の日本の宗教界の懸案となっている宗教の公益性について熱い議論を期待したい。

【発題タイトルと要旨】

災害時における宗教者と連携の力

— その意義と今後の課題 —

稲場 圭信（大阪大学）

■ フェーズ1・2 被災地での宗教の力

- ・資源力： 場の力（畳、広い空間）、物の力（備蓄米・食糧・水）
- ・人的力（マンパワー）
- ・宗教力（祈り、安寧心の支えになる力）

■ 宗教者・研究者の連携

- ・宗教者災害支援連絡会 <http://www.indranet.jp/syuenren/>
- ・宗教者災害救援ネットワーク <http://ja-jp.facebook.com/FBNERJ>
- ・宗教者災害救援マップ <http://sites.google.com/site/fbnerjmap/>

『利他主義と宗教』22頁

■ フェーズ2・3 心のケアと共感する力

- ・傾聴ボランティア？
- ・共感縁に基づいた「寄り添いのケア」、「丸ごとのケア」、何でも屋、御用聞き、土台のお手伝い
- ・さまざまな縁の喪失 ⇒ 共感縁 多くを失った人たちの生きる歩みの伴走者

『利他主義と宗教』35頁

■ 宗教的利他主義の留意点

- ・独善的になっていないか？
- ・閉鎖性（信仰のない人、他宗教の人に開かれているか / 一般の人が参加しやすい雰囲気か）
- ・市民団体と同様に、説明責任を自覚しているか？

■ 連携の課題

行政、自治体、他の民間支援組織との連携
社会的認知度

■ 今後の災害への備え、宗教者と研究者の関わり

フィールドワークからアクション・リサーチ：「観察力」、対象に思いをめぐらす「想像力」、社会現象について記述する「表現力」・「発信力」、人と社会を巻き込んで動かす「行動力」

参考文献：稲場圭信『利他主義と宗教』弘文堂

【発題タイトルと要旨】

宗教の公共力

— 自然とのネットワーキングを考える —

岡田真美子（兵庫県立大学）

序. 山片蟠桃の批判に答えて

「諸山に必ずしも、神仏を勧請すべからず…宝山のるいはみな神仏の奪とらるるものなり」

（山片蟠桃『夢の代』（1820）制度巻之五の十五）

しかし—

神仏の奪い取られた山の姿

（例）辛國息長大姫大目命を奪取された香春の山

山伏が消えた原生林の運命

1. 公共財と宗教

所有と公共財

宗教の水分け

地域の社会資本集積空間としての宗教施設

2. 自然環境と人

入会の根底にあった自然観

環境喪失と喪の仕事

災害時の「草木国土悉皆成仏」

3. 正義と善を語ろう

「本質的な道德論議は進歩的な公共目的と対立しない」「多元的社会に取って、市民が公共生活に持ちこむ道徳的・宗教的信念と関わることを避ける必要はない」（マイケル・サンデル『公共哲学』）

復興の哲学の現実と理想を考える。

正しく見、考えるために

知らない真実 知らされない真実

自然と人をみだりに傷つけず、嘘を言わない復興

4. 宗教ネットワークのもつ可能性

【発題タイトルと要旨】

祈りの公益性をめぐる試論

— 3.11によって照り出される「宗教」の境界 —

小原 克博（同志社大学）

1. 祈りとは何か

祈りは、宗教や宗派（教派）の違いによって、その様相は大きく異なる。しかし、超越的なものへの希求、死者への哀悼など、形式的な違いを超える「普遍性」を有していると考えられる場合もある。たとえば、比叡山において毎年行われている「世界平和祈りの集い」では、平和という共通善は、宗教の違いを超えた祈りの対象になると考えられている。他方、「祈り」を必ずしも積極的にとらえず、その言葉を使うことに慎重な教団もある。教学上の理由から、浄土真宗では「祈る」ことをせず、祈りの場に招かれることにも慎重である。

祈りを、宗教の違いを超える形で定義することができたとしても、それは抽象度の高いものにならざるを得ない。原爆記念日の黙祷や、大きな事件や震災の後に、公的な場で黙祷がなされる。しかし、黙祷を通じて、人々は何に対して祈っているのだろうか。ここでは、問題を抽象的に拡散させないために、キリスト教を参照軸として、祈りの公益性を考えたい。また、祈りの「公益性」を問うことから、そこで「宗教」がどのように理解されているのかについて批判的な検証を加えたい。

2. 祈りと終末論 —— 日常と非日常の裂け目から

大きな苦難を個人的・集団的に経験した際に、信仰の違いや信仰の有無を超えて、祈りや、祈りにならない訴え・うめきが発せられるが、ユダヤ教・キリスト教の歴史的な文脈の中では、「神義論」というテーマのもと議論が蓄積されてきた。大きな苦難とそれに続く祈り・うめきは、平静な日常の中でなされる祈りとは異なる、終末論的次元を有していると言い換えることもできる。リスボン大地震（1755年）は当時のスペインの政治・経済状況だけでなく、ヨーロッパの思想・神学にも大きな影響を与えたことで今もしばしば参照されるが、神義論的課題は、古くはヘブライ語聖書の「ヨブ記」にも例を見ることができる。また日本では、永井隆（1908-51）の原爆解釈（神の摂理としての原爆投下）が様々な議論を引き起こした。

3. 祈りの「公益性」を考えるための事例 —— 祈りの内的力学

祈りが、ただ個人的な願望だけでなく、社会的側面（公益性に間接的につながる）をも含んでいることを、キリスト教の事例から紹介する。

1) 主の祈り（マタイ6:9-13、ルカ11:2-4）

「御国を来たらせたまえ。御心の天になる如く地にもなさせたまえ」

2) ラインホルド・ニーバー（1892-1971）の祈り（Serenity Prayer）

神よ、変えることのできるものについて、

それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、

それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、

識別する知恵を与えたまえ。

「変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵」は、現代の日本社会における「公益性」への問いに直結している。原発再稼働をめぐるエネルギー政策は、両者の識別（境界設定）に関係している。祈りの視点から見た場合には、「公益」の内的力学として、現状を甘受すること（諦めの美学）と現状を変革することの間の緊張関係がある。

4. 「公益」の範囲（境界設定）—— 祈りの外的力学

上述の「公益」の内的力学に対応する外的力学は、公益の範囲をめぐって展開している。具体的には、政教分離（私的領域と公的領域の関係）の問題として顕在化してきた。たとえば、米国ではかつて公立学校で祈りがささげられていたが、1992年、公立学校の卒業式で牧師が祈りをささげたことが違憲とされ、それ以降も同様の訴訟が続き、公立学校での祈りは事実上禁じられていると言ってよい。しかし、アメリカでは、公的領域における宗教活動に対し比較的寛容である（例：faith-based initiatives に対する連邦予算支出）。それに対し、フランスのように、公的領域から宗教性を排除することによって「公益性」が成り立つと考える国々もある。つまり、境界設定のポリティクスを考えなければ、「公益性」を正しく対象化することはできない。

その意味では、歴史的には祈りが必ずしも「公益」には向けられていないことも考慮すべき点となる。敵対するものを滅ぼすことも祈りの対象となり、また、「公益」は自らが帰属する集団の「公益」として理解されるからである。

5. テーマに対する批判的考察—— 「宗教」概念との関係で

宗教が「公益」（＝国益）と結びつくことを要求された時代があった。しかし、その時代以降、宗教と公的領域・私的領域の関係論が日本社会で十分に整理されてきたとは言えない。それゆえ、宗教や祈りが公益へと直結させられることにためらいを感じることもある。

3.11以降強調されてきた公益性は「宗教」概念にも影響を与えているのではないか。公益性が「よい宗教」であるための条件とされ、多くの宗教が「公益」を味方につけようとする。しかし、祈りは包括的・世俗的な「公益性」を拒否する伝統をも有する。ニーバーの祈りに見られたように、祈りを通じて、「公益性」の分断された現実（識別困難な現実）に直面させられることもある。

「公益性」をめぐる議論の一つに、私的領域と公的領域の区別がある。両者をどのように関係づけるかは世俗化論やポスト世俗化論の重要課題であるが、日本の文脈で「公益性」を問うことは、この課題への糸口を与えるのか、あるいは問題の隠蔽をはかることになるのだろうか。

【発題タイトルと要旨】

東日本大震災後の「絆」再興にみる宗教の“ちから”

鈴木 岩弓（東北大学）

東日本大震災以後、広く目にするようになった言葉として「絆」がある。日本漢字能力検定協会が発表する2011年を表す一文字が「絆」であり、49万6997通あった応募のうちの12.4%（61453通）を占めていたことも、この語が時代を象徴する一つのキーワードとなっていたことを示している。この結果に対して『朝日新聞』は「東日本大震災や台風被害で家族の大切さを感じ、支援の輪も広がったことに加え、女子サッカー・なでしこジャパンのチームワークも理由に挙げた」と論評している（2011.12.12）。

さて本シンポジウムにお招きいただいた私に対し、事務局から期待された役割は「供養や神事芸能など伝統的な宗教的営みの果たす意味」に関する話題提供である。この問題にお答えするため、「伝統的な宗教的営み」を「地域に根ざして前の時代から伝えられてきた宗教的習俗」と考え、イエレベルと地域レベルの絆再興の場面に焦点を当てて、宗教のもつ“ちから”の実態を見ていくことにしたい。具体的には、以下のような話題を考えている。

1. イエをめぐる絆の再興

- ・津波による先祖の依代の喪失
位牌・遺影・過去帳・骨・遺品……
→個性をもった先祖の消滅
- ・先祖
そのイエで祀るのでなければ祀られることのない死者の霊（柳田國男）
- ・吊り上げの短縮化
- ・先祖のシンボルの創出

2. 地域をめぐる絆の再興

- ・檀那寺
位牌堂・過去帳の流出
- ・氏神
神輿・神楽面などの流出
- ・地域の宗教施設
コミュニティーセンター的役割

3. 「絆」再興に果たす宗教者の関わり

- ・被災地と心のケア
突然の死
- ・Café de Monk の活動
- ・「臨床宗教師」（仮称）への期待
超宗派・超宗教的に行われる宗教的ケアの可能性

登壇者紹介

稲場 圭信 (いなば けいしん) 1969年東京都生まれ。東京大学文学部・ロンドン大学キングスカレッジ大学院博士課程修了。大阪大学大学院准教授。宗教社会学博士。研究分野は、宗教の社会貢献研究、利他主義・市民社会論。著書に『利他主義と宗教』(弘文堂)、『思いやり格差が日本をダメにする一支援合う社会をつくる8つのアプローチ』(NHK出版)、『Altruism in New Religious Movements』(大学教育出版)、共著書に『社会貢献する宗教』(世界思想社)など。「宗教者災害救援ネットワーク」、及び「宗教者災害救援マップ」の発起人・共同運営者、「宗教者災害支援連絡会」世話人。

岡田真美子 (おかだ まみこ) 1954年京都府生まれ。東京大学文学部・同大学修士課程修了・ドイツボン大学修了Dr.Phil(哲学博士・インド学)。兵庫県立大学教授。研究分野は、環境宗教学、仏教説話、地域ネットワーク論。編著書に『地域をはぐくむネットワーク』、『地域再生とネットワーク』、『ちいさなちいさないきものがたり』(昭和堂)、共著書に『日本の環境思想の基層』(岩波書店)など。「宗教者災害支援連絡会」発起人・世話人、「SNS 宗教者災害支援連絡会」管理人。

小原 克博 (こはら かつひろ) 1965年大阪府生まれ。同志社大学大学院博士課程修了。同志社大学神学部教授・一神教学際研究センター長。博士(神学)。研究分野は、キリスト教思想、比較宗教倫理学、一神教研究。著書に『神のドラマトゥルギー—自然・宗教・歴史・身体を舞台として』(教文館)、『宗教のポリティクス—日本社会と一神教世界の邂逅』(晃洋書房)、共著書に『キリスト教と現代—終末思想の歴史的展開』(世界思想社)、『よくわかるキリスト教@インターネット』(教文館)、『原理主義から世界の動きが見える—キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』(PHP研究所)など。

鈴木 岩弓 (すずき いわゆみ) 1951年東京都生まれ。東北大学大学院 文学研究科 博士後期単位取得退学。東北大学大学院教授。宗教民俗学。研究分野は、現代社会の祖先祭祀、死生観・民間信仰概念の展開、流行神現象など。共著『文化と現代世界—文化人類学の視点から—』(嵯峨野書院)、『いま、この日本の家族—絆のゆくえ』(弘文堂)、論文に「戦後における柳田 國男の『祖先祭祀』観」、「墓石に見る現代日本人の死生観」、「民俗仏教にみる『死者』への祈り—遺影を手がかりに—」など。東日本大震災後は、超宗派・超宗教的に集まった宗教者による宗教的ケアの組織「心の相談室」の事務局長。

中牧 弘允 (なかまき ひろちか) 1947年長野県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程及び博士課程修了。国立民族学博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授。吹田市立博物館長。文学博士。宗教人類学、経営人類学、ブラジル研究などに従事。編著書に『新世界の日本宗教—日本の神々と異文明—』(平凡社)、『日本宗教と日系宗教の研究—日本・アメリカ・ブラジル—』(刀水書房)、『むかし大名、いま会社—企業と宗教—』(淡交社)、『増補 宗教に何がおきているのか』(平凡社)、『会社のカミ・ホトケ—経営と宗教の人類学—』(講談社選書メチエ・講談社)、『社葬の経営人類学』(東方出版)、『カレンダーから世界を見る』(白水社)など。

櫻井 治男 (さくらい はるお) 1949年京都府生まれ。皇學館大学大学院文学研究科修士課程修了。皇學館大学教授。博士(宗教学)。著書に『蘇るムラの神々』(大明堂)、『地域神社の宗教学』(弘文堂)など。

第1部会

(7号館1F) 711 教室

8日(土)

宗教学・宗教史学①

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | エサルハドンの「宗教改革」 | 渡辺 和子 (東洋英和女学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | シェリングとレッシングにおける自然的宗教について | 諸岡道比古 (弘前大) |
| 3. 9:50-10:10 | サンタヤーナと自然的宗教 | 庄司 一平 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | ルドルフ・オットーにおける宗教と社会問題 | 藁科 智恵 (東京外国語大) |
| 5. 10:40-11:00 | ハイラーの祈り論の現代的意義 | 宮嶋 俊一 (大正大) |
| 6. 11:05-11:25 | フォーマットとしての宗教施設—ブルーリズムと宗教の役割— | 松野 智章 (東洋大) |
| 7. 11:30-11:50 | 多元主義の社会的文脈における作用実態と将来への展望 | 渡辺 光一 (関東学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宗教研究におけるライフストーリーの方法論的意義について | 宮本要太郎 (関西大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | ポルピュリオス『ニュンペーの洞窟』における神話解釈 | 小野 隆一 (筑波大) |
| 2. 14:25-14:45 | プロクロスにおける「神に似ること」の問題 | 土井 裕人 (筑波大) |
| 3. 14:50-15:10 | 宗教伝統の倫理的意義をめぐる一考察 | 飯田 篤司 (鎌倉女子大) |
| 4. 15:15-15:35 | 宗教の現実態と宗教の諸研究—思想研究と実証的研究— | 小田 淑子 (関西大) |
| 5. 15:40-16:00 | 幸福の宗教学 | 関 一敏 (九大) |

9日(日)

宗教学・宗教史学②

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 自然概念にまつわる言説空間—現代日本の場合— | 近藤 光博 (日本女子大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「自然的救済論／救済論的自然」の概念 | 深澤 英隆 (一橋大) |
| 3. 9:50-10:10 | 魔女とバロック | 黒川 正剛 (太成学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『魔女への鉄槌』に見る悪魔像の構成 | 野村 仁子 (南山大) |
| 5. 10:40-11:00 | 市民宗教再考—19世紀フランスの思想家たちに即して— | 伊達 聖伸 (上智大) |
| 6. 11:05-11:25 | 19世紀アメリカ合衆国の健康と宗教実践 | 佐藤 清子 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | 黒人運動にみる宗教的家族組織の形成—米国のオリシャ崇拝より— | 小池 郁子 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | ブラック・ディアスポラの宗教運動における「黒人」概念の変遷 | 上間 励起 (東大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------|
| 1. 13:15-13:35 | エリアーデにおける学問と芸術の一体性—美学の観点からの考察— | 藤井 修平 (東大) |
| 2. 13:40-14:00 | 在ポルトガル・ルーマニア大使館におけるエリアーデの宗教思想 | 奥山 史亮 (北大) |

- | | |
|--|-------------------|
| パネル 宗教学、社会学、民俗学の誕生—ヨーロッパと日本の共振—
14:10-15:50 民族学と民俗学—折口信夫『古代研究』の起源—
モース宗教社会学の生成
ペッタッツォーニ宗教史学の出発点 | 代表者：安藤 礼二 (多摩美術大) |
| | 溝口 大助 (九大) |
| | 江川 純一 (東大) |
| | コメンテーター：関 一敏 (九大) |
| | 司会：安藤 礼二 (多摩美術大) |

8日(土)

宗教哲学とその関連

【午前】

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 「女性神秘家」における理性と経験 | 村上 寛 (早大) |
| 2. 9:25- 9:45 スピノザにおける無知としての奇跡 | 大野 岳史 (東洋大) |
| 3. 9:50-10:10 デウスからナトゥーラヘースピノザと17世紀の改革派神学— | 加藤 喜之 (プリンストン神学校) |
| 4. 10:15-10:35 カント哲学における信仰の概念 | 南 翔一郎 (京大) |
| 5. 10:40-11:00 美的仮象と遊戯—シラーにおける相互主観性の問題— | 田口 博子 (工学院大) |
| 6. 11:05-11:25 ジェイムズにおける信じる意志の射程 | 林 研 (大谷大) |
| 7. 11:30-11:50 ヤスパースの「未来における信仰」について | 藤田 俊輔 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 フランツ・ローゼンツヴァイクの思想における祈りの問題 | 丸山 空大 (日本学術振興会) |

【午後】

- | | |
|--|----------------|
| 1. 14:00-14:20 存在と情動—レヴィナスからバタイユへ— | 伊原木大祐 (北九州市立大) |
| 2. 14:25-14:45 神秘体験と記述に対する一考察—G.バタイユの思想を中心に— | 赤羽 優子 (大正大) |
| 3. 14:50-15:10 ハンナ・アーレントにおける「赦し」論の展開 | 本間 美穂 (東大) |
| 4. 15:15-15:35 メルロ＝ポンティと祈り | 松田健三郎 (天理大) |

9日(日)

キリスト教・宗教哲学①／災害・宗教・支援①

【午前】

- | | |
|---|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 創世記22章における地名モリヤの文学的機能 | 岩崎 大悟 (関西学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 語られた言葉と書かれた言葉—ブーバーのサムエル記解釈より— | 堀川 敏寛 (日本学術振興会) |
| 3. 9:50-10:10 「ヨシヤの改革」と聖書外資料 | 高橋 優子 (明治学院大) |
| 4. 10:15-10:35 死を意味づける語り—空の墓伝承を事例として— | 土居 由美 (立教大) |
| 5. 10:40-11:00 幻視と夢の図像学 | 細田あや子 (新潟大) |
| 6. 11:05-11:25 偽ニュッサのグレゴリオス『聖書選文集』における律法理解 | 高橋 博厚 (関西学院大) |
| 7. 11:30-11:50 アウグスティヌスの時間論に於ける過去と未来について | 山田庄太郎 (筑波大) |

【午後】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 13:15-13:35 再臨運動とホーリネス・リバイバル | 黒川 知文 (愛知教育大) |
| 2. 13:40-14:00 ユリアヌスの宗教観と宗教政策における「宗教の公益性」 | 中西 恭子 (明治学院大) |

- | | |
|--|------------------------|
| パネル 宗教者側の実践活動から見てくる東日本大震災後の宗教学的課題
14:10-15:50 魂への配慮—被災地校教育支援の現場から—
被災者支援において、〈仏教的〉であるとはどういうことか？
「再構築」への奉仕—脱カルト支援を手がかりに— | 代表者：新免 貢 |
| | 長谷川(間瀬) 恵美 (桜美林大) |
| | 坂井 祐円 (南山宗教文化研究所) |
| | 竹迫 之 (日本脱カルト協会) |
| | コメンテーター：新免 貢 (宮城学院女子大) |
| 司会：長谷川(間瀬) 恵美 (桜美林大) | |

8日(土)

キリスト教①

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | アンセルムスにおける affectio について | 矢内 義顕 (早大) |
| 2. 9:25- 9:45 | マイスター・エックハルトにおける神の言述可能性について | 松沢 裕樹 (早大) |
| 3. 9:50-10:10 | エックハルトの「永遠」理解—Panentheismus の観点から— | 田島 照久 (早大) |
| 4. 10:15-10:35 | 「推測」と〈否定神学〉—クザーヌスの所論をめぐって— | 島田 勝巳 (天理大) |
| 5. 10:40-11:00 | ルネサンスの神話解釈—F.ペイコンの『古代人の知恵』と想像力— | 下野 葉月 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | ジャンセニウスの「純粹本性の状態」概念批判 | 林 伸一郎 (明星大) |
| 7. 11:30-11:50 | 神学的後衛としてのエルンスト・トレルチ | 小柳 敦史 (沼津工業高専) |
| 8. 11:55-12:15 | ティリッヒの宗教社会主義思想 | 宮崎 直美 (一橋大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------------|-----------------|
| 1. 14:00-14:20 | 正義の重荷と恵み—E.ブルンナーの正義論を手掛かりに— | 今出 敏彦 (宮崎産業経営大) |
| 2. 14:25-14:45 | 1913年のR.ブルトマン—彼は神学的アヴァンギャルドなのか— | 深井 智朗 (金城学院大) |
| 3. 14:50-15:10 | アメリカの新聞からみるラインホルド・ニーバー | 澤井 治郎 (東北大) |
| 4. 15:15-15:35 | 現代キリスト教における死後世界論の意義について | 方 俊植 (京大) |

9日(日)

キリスト教②／イスラム／ユダヤ教

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 内観と悲哀 | 寺尾 寿芳 (南山宗教文化研究所) |
| 2. 9:25- 9:45 | Corpora incorrupta に関する思想史的考察 | ジョン・モリス (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 対抗言説としての Conspiracy Theory | 辻 隆太郎 (北大) |
| 4. 10:15-10:35 | 共同体の紐帯—イバード派イスラム思想におけるワラーヤの概念— | 近藤 洋平 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | イスラームの制度化と宗教界の再構成—ベルリン市の事例から— | 堀 彩子 (一橋大) |
| 6. 11:05-11:25 | ポスト・スハルト期インドネシアのリベラル・イスラームの展開 | 蓮池 隆広 (国際宗教研究所) |
| 7. 11:30-11:50 | グローバル化時代のイスラームにおけるハラール概念の展開 | 八木久美子 (東京外国語大) |
| 8. 11:55-12:15 | F.シュオンと W.C.スミス | 中村廣治郎 (東大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------|-------------|
| 1. 13:15-13:35 | コプト教会と総主教—シュヌーダ三世の果たした役割— | 岩崎 真紀 (筑波大) |
| 2. 13:40-14:00 | 中世ユダヤ教の聖書解釈における基準の問題 | 志田 雅宏 (東大) |

- | | | |
|-----------------|--------------------------------|---------------------|
| パネル 14:10-16:10 | 伝統の危機とユダヤ教—築きあげたものが壊れるとき— | 代表者：勝又 悦子 |
| | 翻訳聖書に見る「危機」解釈と克服—金の子牛像事件を中心に— | 大澤 耕史 (京大) |
| | 「第二神殿崩壊」はいかに解釈されたか | 勝又 悦子 (同志社大) |
| | マイモニデス『イエメンへの手紙』考察—共同体崩壊危機の克服— | 神田 愛子 (レオ・ベック・カレッジ) |
| | 19世紀東欧ユダヤ教の危機とハラハー的伝統の革新 | 市川 裕 (東大) |
| | | コメンテータ：小田 淑子 (関西大) |
| | | 司会：勝又 悦子 (同志社大) |

第4部会

(7号館3F) 732教室

8日(土)

インド仏教・中国仏教

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 『金剛般若経』における即非の論理と「如」の思想 | 末村 正代 (関西大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 『雑阿毘曇心論』業品における無間業の壊僧について | 智谷 公和 (相愛大) |
| 3. 9:50-10:10 | 無表業の相続問題 | 日比 佑香 (立正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 『大乘莊嚴経論』菩提品の成立について | 田口 恵敬 (立正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 六朝～唐代の仏教系散逸医書と伝存医書に見る医方の伝承関係 | 多田 伊織 (国際日本文化研究センター) |
| 6. 11:05-11:25 | 吉蔵による感応の理解について | 藤野 泰二 (立正大) |
| 7. 11:30-11:50 | 凡夫と大乘菩薩道 | 溪 英俊 (浄土真宗本願寺派宗学院) |
| 8. 11:55-12:15 | 中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法 | 金子 奈央 (東方研究会) |
| 9. 12:20-12:40 | 三諦説におけるデイヴィドソン哲学の位置づけ | 渡辺 隆明 (大正大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|----------------|
| 1. 14:00-14:20 | 法華経の成立過程についての一試論 | 西 康友 (中央学術研究所) |
| 2. 14:25-14:45 | フッサール現象学と初期唯識仏教の実践理論 | 阿部 旬 (文京学院大) |
| 3. 14:50-15:10 | パーヴィヴェーカによる自性 (svabhāva) 批判 | 兼子 直也 (筑波大) |
| 4. 15:15-15:35 | アティシャの顕教文献において言及される密教文献 | 望月 海慧 (身延山大) |
| 5. 15:40-16:00 | 聖地と交流・伝播—インド密教行者ナーローパの聖地論— | 杉木 恒彦 (日本橋学館大) |

9日(日)

インドの宗教／戦後日本の宗教教団・制度

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 古代インドにおける祖先祭祀と女性の関与 | 虫賀 幹華 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 古典インド医学書における浄・不浄の概念 | 森口 眞衣 (北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 翻訳された理想の女性像—叙事詩『ラーマーヤナ』をめぐる— | 榊 和良 (北海道武蔵女子短大) |
| 4. 10:15-10:35 | ヒンドゥー教寺院の内陣について | 出野 尚紀 (東洋大) |
| 5. 10:40-11:00 | インドの歴史教科書におけるヒンドゥー・ナショナリズムの叙述 | 澤田 彰宏 (東洋大) |
| 6. 11:05-11:25 | シュリーマッド・ラーヂチャンドラにおけるジャイナ教思想 | 間 永次郎 (一橋大) |
| 7. 11:30-11:50 | 北インド・ゴージャー神信仰の位置づけをめぐる—考察— | 拓 徹 |

【午後】

- | | | |
|----------------|-----------------------------|----------------------|
| 1. 13:15-13:35 | 戦後日本とキリスト教—1970年代の日本基督教団から— | 川口 葉子 (阪大) |
| 2. 13:40-14:00 | 諸宗教間対話は進んでいるか—教会の保守化傾向を考える— | 高橋 勝幸 (国際日本文化研究センター) |

- | | | |
|--|-------------|--------------|
| パネル 国家と宗教団体の葛藤の中で—戦後の宗教法制度と宗教法人—
14:10-16:10 戦後から沖縄本土復帰までの宗務行政の諸問題
沖縄占領と宗教法人
琉球政府立法院の宗教法人法参考案
本土復帰による墓地、埋葬等に関する法律の適用と現代的課題 | 代表者: | 石井 研士 |
| | | 石井 研士 (國學院大) |
| | | 中野 毅 (創価大) |
| | | 大澤 広嗣 (文化庁) |
| | | 村上 興匡 (大正大) |
| | コメンテーター・司会: | 古賀 和則 (龍大) |

8日(土)

日本仏教①

【午前】

1. 9:00- 9:20 親鸞における聖徳太子像について
2. 9:25- 9:45 親鸞における果遂の誓について
3. 9:50-10:10 親鸞聖人の『華嚴経』観
4. 10:15-10:35 親鸞浄土教における光の形而上学的意義
5. 10:40-11:00 『教行信証』における阿闍世の救済と逆誘除取
6. 11:05-11:25 真宗とメディア
7. 11:30-11:50 近代以前親鸞伝における善鸞像
8. 11:55-12:15 存覚上人と法華
9. 12:20-12:40 存覚『報恩記』における父母に対する報恩思想

- 内記 洸 (親鸞仏教センター)
 杉田 了 (龍大)
 永原 智行
 安藤 章仁 (龍大)
 林 智康 (龍大)
 加茂 順成 (龍大)
 御手洗隆明 (真宗大谷派教学研究部)
 川野 寛 (浄土真宗本願寺派宗学院)
 谷口 智子 (龍大)

【午後】

1. 14:00-14:20 大瀛の三業帰命説批判—管見『真宗安心十論』—
2. 14:25-14:45 清沢満之の宗教哲学における宗教起源論について
3. 14:50-15:10 清沢満之門下の時代意識—雑誌『精神界』を中心に—
4. 15:15-15:35 近代真宗の法蔵菩薩詮釋に関する一考察—金子大榮を例に—
5. 15:40-16:00 親鸞聖人750回遠忌報恩大法会の実施報告について

- 西原 法興 (龍大)
 ベルナット・マルティ・オロバル (バレンシア大)
 春近 敬 (親鸞仏教センター)
 陳 敏齡 (輔仁大)
 藤喜 一樹 (愛知大)

9日(日)

日本仏教②

【午前】

1. 9:00- 9:20 九条道家の宗教生活
2. 9:25- 9:45 道元禅師の修証観—十地・等覚について—
3. 9:50-10:10 道元の密受心印について
4. 10:15-10:35 癡兀大慧の禅密思想
5. 10:40-11:00 関山国師と大灯録
6. 11:05-11:25 鈴木大拙と仙厓—遊戯の視点から—
7. 11:30-11:50 鈴木大拙の妙好人解釈
8. 11:55-12:15 東西靈性交流における「靈性」の問題

- 龍口 恭子 (東方学院)
 清藤 久嗣 (曹洞宗総合研究センター)
 石井 修道 (駒大)
 高柳さつき (東方研究会)
 木村 俊彦 (四天王寺大)
 嶋本 浩子 (日本経済大)
 蓮沼 直應 (筑波大)
 峯岸 正典

【午後】

1. 13:15-13:35 白山—『泰澄和尚伝』試論—
2. 13:40-14:00 『日本靈異記』における仏教について

- 小林 一葵
 前島 康佑 (東大)

パネル 宗教史研究のフィールドワーク論

- 14:10-16:10 近代仏教研究における文献史料と文化資料—梵曆資料の多様性—
 佐田介石をめぐる史料調査とその重層—浅野研真から谷川穰まで—
 私が資料について感じる二、三のこと—京大文化史学派研究から—
 正徳寺資料から見える戦前の仏教国際化

代表者：大谷 栄一

- 岡田 正彦 (天理大)
 谷川 穰 (京大)
 菊地 暁 (京大)
 吉永 進一 (舞鶴工業高専)

コメンテータ・司会：大谷 栄一 (佛教大)

8日(土)

日本仏教③

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 『叡山大師伝』をめぐる諸問題 | 前川 健一 (東洋哲学研究所) |
| 2. 9:25- 9:45 | 神秘思想から超越へ—即身成仏(時間と空間の超越)の例— | 前田 禮子 (高野山大) |
| 3. 9:50-10:10 | 幸西と証空における信 | 那須 一雄 |
| 4. 10:15-10:35 | 良忠の本願観—『観経疏伝通記』を通じて— | 沼倉 雄人 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 日蓮研究に関する方法論上の再検討—実証主義の持つ限界— | 笠井 正弘 |
| 6. 11:05-11:25 | 仏典にみる五障三従説とその超克—法華経・日蓮の視点より— | 穂坂 悠子 (立正大) |
| 7. 11:30-11:50 | 日蓮の朝鮮仏教認識 | 福士 慈稔 (身延山大) |
| 8. 11:55-12:15 | 日興とその門弟の往来に関する一考察 | 本間 俊文 (立正大) |
| 9. 12:20-12:40 | 身延日意目録に関する一考察—書誌学的考察を中心に— | 木村 中一 (身延山大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 14:00-14:20 | 敬台院万姫と法華信仰—鎌倉鏡台寺の興廃をめぐる— | 長倉 信祐 (富士学林) |
| 2. 14:25-14:45 | 近世日蓮宗の寺檀制度再考 | 坂輪 宣政 (立正大) |
| 3. 14:50-15:10 | 書肆・加賀屋善蔵と日蓮聖人伝の出版 | 堀部 正円 (富士学林) |
| 4. 15:15-15:35 | 長松日扇における教化活動の一考察—本尊授与者をめぐる— | 武田 悟一 (立正大) |
| 5. 15:40-16:00 | 藤井日達の仏教アジア主義とマハトマ・ガンディーの近代文明批判 | 外川 昌彦 (広島大) |

9日(日)

宗教民俗①／グローバル化と宗教①

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|--------------|
| 2. 9:25- 9:45 | 修験道系柱松行事の行われる場 | 由谷 裕哉 (小松短大) |
| 3. 9:50-10:10 | 木曾三川十六輪中における灌漑用の自噴井と水神 | 下本英津子 (名大) |
| 4. 10:15-10:35 | 宮崎県山間部における狩猟のしきたり—西都市銀鏡の事例— | 鈴木 良幸 (名大) |
| 5. 10:40-11:00 | 真宗「地帯」の再考—三重県津市における宗教民俗の諸相から— | 亀崎 敦司 (九大) |
| 6. 11:05-11:25 | 宗教民俗学における現世利益信仰の位置 | 阿部 友紀 (東北大) |
| 7. 11:30-11:50 | よさこい系祭りの組織的特徴 | 芳賀 学 (上智大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------|
| 1. 13:15-13:35 | グローバル社会における民衆宗教—サンタ・ムエルテを事例に— | 井上 大介 (創価大) |
| 2. 13:40-14:00 | 日本仏教のアメリカ化の諸相—加州の浄土真宗と禅宗を比較して— | 釋氏 真澄 (龍大) |

- | | | |
|---|-------------------------------|--------------------------|
| パネル 移民と宗教を結ぶホームランドへのノスタルジア
14:10-16:10 | ハワイ日系宗教における現地適応と「日本」 | 代表者：藤野 陽平
高橋 典史 (東洋大) |
| | 日本人妻が出会った故郷—台湾の日本語教会と高齢者施設にて— | 藤野 陽平 (日本学術振興会) |
| | 在日ムスリムの少女たちのエスニシティと複数の故郷 | 川崎のぞみ (筑波大) |
| | 想像・創造される場としてのプロテスタント教会 | 山田 政信 (天理大) |
| | | コメンテータ：三木 英 (大阪国際大) |
| | 司会：白波瀬達也 (大阪市立大) | |

第7部会

(7号館4F) 742教室

8日(土)

神道

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 宗教的観点からの森林の思想と価値 | 神守 昇一 (皇學館大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 神道についての宗教哲学的考察 | 吉田喜久子 (人間環境大) |
| 3. 9:50-10:10 | 古代神宮祭祀における聖体示現 | 新田佳恵子 (皇學館大) |
| 4. 10:15-10:35 | 上代における祈りの変容 | 白江 恒夫 (芦屋大) |
| 5. 10:40-11:00 | 相嘗祭の一考察 | 富田 実 |
| 6. 11:05-11:25 | 近世期における西京神人と御供所— 祭礼および宮繕活動について— | 吉野 亨 (國學院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 伊勢信仰と民間における風鎮め | 小出亜耶子 (北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 神道祭祀における祝詞奏上と玉串奉奠について | 竹内 雅之 (國學院大) |
| 9. 12:20-12:40 | 近代の御師制度廃止と伊勢信仰について | 八幡 崇経 (皇學館大) |

【午後】

- パネル 「国家神道」における公共性と宗教性— 昭和戦前期を中心に— 代表者：藤田 大誠 (國學院大)
- 14:00-16:00 「国家神道」研究の課題と展望 齊藤 智朗 (國學院大)
- 神社対宗教問題に関する一考察— 神社参拝の公共性と宗教性— 藤田 大誠 (國學院大)
- 無格社整理と神祇院 藤本 頼生 (國學院大)
- 今泉定助の思想— 神道的国体論の宗教性— 昆野 伸幸 (神戸大)
- コメンテータ：小島 伸之 (上越教育大)
- 司会：藤田 大誠 (國學院大)

9日(日)

神道・日本思想

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 藤樹と蕃山の経典(大学・孝経)解釈の違いについて | 鈴木 保實 |
| 2. 9:25- 9:45 | 山崎闇斎と『日本書紀』神代卷 | 孫 傳玲 (名大) |
| 3. 9:50-10:10 | 若林強斎の祭政一致論 | 齋藤 公太 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 本居宣長における儒仏伝来の「記述」 | 森 和也 (東方研究会) |
| 5. 10:40-11:00 | 平田篤胤の『黄帝傳記』について— 神道と道教との関連で— | 坂出 祥伸 (森ノ宮医療大) |
| 6. 11:05-11:25 | 所謂神基習合神道をめぐり— 考察 | 三ツ松 誠 (日本学術振興会) |
| 7. 11:30-11:50 | 堀秀成の思想と行動— 平田派国学者の視点から— | 小林 威朗 (國學院大) |
| 8. 11:55-12:15 | 宮地神道とは何であったのか | 黒田 宗篤 (阪大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------|----------------|
| 1. 13:15-13:35 | 石門心学における宗教体験とその言説 | 澤井 努 (京大) |
| 2. 13:40-14:00 | 経営倫理における石門心学の意義— 現状と展望— | 中道 豪一 (広島商船高専) |

- パネル 神祇伯白川家と伯家神道 代表者：山口 剛史
- 14:10-16:10 諸国門人帳にみる白川家の門人 金光 英子 (金光図書館)
- 白川家の社祠勧遷と位階執奏 石川 達也 (戸田市立郷土博物館)
- 白川家門人斎藤彦麿と鎮魂祭 山口 剛史 (皇學館大)
- 初期禊教の展開と白川家 荻原 稔 (都立青峰学園)
- コメンテータ：幡鎌 一弘 (天理大)
- 司会：井上 智勝 (埼玉大)

8日(土)

近代日本と宗教①

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 形なき「安心」—福澤諭吉の人生観に表れる宗教性— | 島田雄一郎 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 明治期における祖先観の形成—穂積陳重を中心に— | 問芝 志保 (筑波大) |
| 3. 9:50-10:10 | 井上円了「妖怪学」における心理学の射程 | 長谷川琢哉 (大谷大) |
| 4. 10:15-10:35 | 久米邦武のキリスト教観—『米欧回覧実記』を中心に— | 西田みどり (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 帝国日本における笈克彦の神道思想とその影響について | 西田 彰一 (総合研究大学院大) |
| 6. 11:05-11:25 | 前期西田哲学における「意識」の問題 | 秋富 克哉 (京都工芸繊維大) |
| 7. 11:30-11:50 | 西田幾多郎における「死の自覚」について | 喜多 源典 (関西大) |
| 8. 11:55-12:15 | 西田幾多郎「場所」論の宗教的意義 | 杉本 耕一 (関西大) |
| 9. 12:20-12:40 | 西谷啓治の「根源的構想力の発動」について | 小野 真 (相愛大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | 明治期キリスト教と巡礼ツーリズム | 岡本 亮輔 (成蹊大) |
| 2. 14:25-14:45 | 内村鑑三の神名解釈 | 渡部 和隆 (京大) |
| 3. 14:50-15:10 | 矢内原忠雄と新渡戸稲造—人間への眼差し— | 森上 優子 (文部科学省) |
| 4. 15:15-15:35 | 近代日本思想の宗教テキスト解釈—ドストエフスキと聖書から— | 飯島 孝良 (東大) |
| 5. 15:40-16:00 | アジアにおける近代化と宗教—インドと日本の比較研究— | 保坂 俊司 (中央大) |

9日(日)

近代日本と宗教②

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 近代における仏教者のキリスト教観—島地黙雷・大等を中心に— | 岩田 真美 (龍大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「大逆」の僧・高木顕明の往還二回向理解について | 菱木 政晴 (同朋大) |
| 3. 9:50-10:10 | 斎藤茂吉と浅草寺 | 小泉 博明 (文京学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 戦後地域社会における皇族崇敬の検討 | 茂木謙之介 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 近代中国仏教における末法思想と亡国論の関係について | エリック・シッケタンツ (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | 横川顕正と宗教経験 | 和田 真二 (帝塚山学院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 井筒俊彦においての禅思想とその理解 | ファン・ホセ・ロペス・パソス (天理大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| 1. 13:15-13:35 | 近代仏教のキリスト教観 | 西村 玲 (東方研究会) |
| 2. 13:40-14:00 | 近代日本仏教の社会思想 | 上村 岳生 (東大) |

- | | | |
|-----------------------|--------------------|----------------------|
| パネル 戦後の日本仏教論—諸学説の再検討— | 代表者: | オリオン・クラウタウ |
| 14:10-16:10 | 戦後日本仏教学説の課題 | オリオン・クラウタウ (龍大) |
| | 連続と断絶—服部之総の「親鸞」— | 桐原 健真 (東北大) |
| | 圭室諦成著『葬式仏教』再考 | ライアン・ワルド (明大) |
| | 戦後日本仏教と民俗学—五来重の場合— | 碧海 寿広 (宗教情報リサーチセンター) |
| | コメンテータ: | 佐藤 弘夫 (東北大) |
| | 司会: | オリオン・クラウタウ (龍大) |

8日(土)

宗教と生死①

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 供養あるいは慰霊—日本の宗教性— | 浅野 章 |
| 2. 9:25- 9:45 | 室町時代における戦死者慰霊 | 山田 雄司 (三重大) |
| 3. 9:50-10:10 | 江戸の笑いと死—安永期小咄本の死生観— | 大村 哲夫 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | 地藏盆と両墓制—兵庫県豊岡市竹野町の事例— | 清水 邦彦 (金沢大) |
| 5. 10:40-11:00 | 葬送倫理試論 | 近藤 剛 (神戸国際大) |
| 6. 11:05-11:25 | 事故被害者への慰霊—他者からのまなざし— | 名和 清隆 (淑徳短大) |
| 7. 11:30-11:50 | 青葉園にみる戦後日本における死者への公益性と死の公共性 | 土居 浩 (ものづくり大) |
| 8. 11:55-12:15 | 現代の霊場における供養の実態—四萬部寺・八葉寺の事例から— | 徳野 崇行 (駒大) |

【午後】

- | | | |
|------------------|--------------------------------|----------------|
| パネル 宗教における死生観と超越 | 代表者：高田 信良 | |
| 14:00-16:00 | 宗教的信における超越とその構造—諸井慶徳の宗教論— | 澤井 義次 (天理大) |
| | 危機の体験と死生観の形成—現代日本におけるキリスト教理解— | 中村 信博 (同志社女子大) |
| | ムカッリフ(能力者)概念をめぐる信仰告白表明と審判 | 四戸 潤弥 (同志社大) |
| | 〈下への超越〉と〈将来する浄土〉—武内義範の「信楽の思惟」— | 高田 信良 (龍大) |
| | コメンテータ：氣多 雅子 (京大) | |
| | 司会：高田 信良 (龍大) | |

9日(日)

宗教と生死②

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 「生・死・死後」の色のイメージ—美大生への質問紙調査から— | 久保田 力 (東北芸術工科大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 看取りの前後における宗教民俗的な体験・想像・語り | 相澤 出 (爽秋会岡部医院) |
| 3. 9:50-10:10 | 看取りの文化考—がん患者遺族の語りにもとづいて— | 井藤美由紀 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | 心理学理論における死と宗教—愛着理論— | イーリヤ・ムスリン (東大) |
| 5. 10:40-11:00 | 現代韓国における自然葬の思想 | 田中 悟 (神戸大) |
| 6. 11:05-11:25 | 戦没者慰霊の一考察 | 白山芳太郎 (皇學館大) |
| 7. 11:30-11:50 | シュヴァイツァーにおける生命観の諸問題 | 岩井謙太郎 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | 人工妊娠中絶をめぐる神学的議論についての—考察 | 朝香 知己 (同志社大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------------|------------|
| 1. 13:15-13:35 | 生命倫理言説の日韓比較—韓国における中絶論争— | 金 律里 (東大) |
| 2. 13:40-14:00 | 代理母出産と仏教的生命観—四有説を手がかりとして— | 金 永晃 (大正大) |

- | | | |
|---------------------|--------------------------------|-------------|
| パネル 宗教的「いのち」観の危機と課題 | 代表者：安藤 泰至 | |
| 14:10-16:10 | 宗教と「いのち」言説—生命をめぐるポリテクスのなかで— | 安藤 泰至 (鳥取大) |
| | 「いのち」を生きることの困難—僧侶の病床訪問活動から— | 大河内大博 (上智大) |
| | 「選択」から「応答」へ—いのちの倫理における宗教の役割— | 空閑 厚樹 (立教大) |
| | 「いのち」が語られる地平—他なるものとのかかわりをめぐって— | 竹之内裕文 (静岡大) |
| | コメンテータ：脇坂 真弥 (東京理科大) | |
| | 司会：安藤 泰至 (鳥取大) | |

第10部会

(7号館4F) 745教室

8日(土)

宗教と医療・科学

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | サステイナビリティと自然農法—福岡正信の場合— | 木村 武史 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 岩倉大雲寺妙見の瀧における精神医療をめぐる | 河東 仁 (立教大) |
| 3. 9:50-10:10 | 幻聴と宗教 | 大宮司 信 (北翔大) |
| 4. 10:15-10:35 | マインドフルネスと依存症のケア—Brazierの思想と実践— | 葛西 賢太 (宗教情報センター) |
| 5. 10:40-11:00 | 医療と宗教における人間観の問題 | 杉岡 良彦 (旭川医科大) |
| 6. 11:05-11:25 | 二重の概念図式理論から考える宗教と科学—揺らぐ現実／虚構— | 谷内 悠 (東大) |
| 7. 11:30-11:50 | 生命の起源—デザイナーとしての神概念の科学的検討— | 十津 守宏 (鈴鹿短大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 14:00-14:20 | 明治大正期における“中国哲学”の構築と静坐の実践 | 野村 英登 (二松學舎大) |
| 2. 14:25-14:45 | 「みかぐらうた」から見る身体技法の翻訳—タイの天理教の事例— | 永松 和郎 (九大) |
| 3. 14:50-15:10 | 伝統医療と社会福祉—インドの—宗教組織の試みを事例に— | 岡光 信子 (東北大) |
| 4. 15:15-15:35 | 1920~40年代「精神療法」のなかの臼井式靈氣療法 | 平野 直子 (早大) |
| 5. 15:40-16:00 | サイコロジカル・ファーストエイドにおける宗教の役割 | 井上ウイマラ (高野山大) |

9日(日)

宗教民俗②／災害・宗教・支援②

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 法華山—乗寺巡礼札からみる西国巡礼者の出身地域について | 幡鎌 一弘 (天理大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 江戸時代前期の遍路道再現—澄禅『四国辺路日記』を中心に— | 柴谷 宗叔 (高野山大) |
| 3. 9:50-10:10 | 説経節を読む—宗教研究としての読解の試み— | 千葉 俊一 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 職人巻物の宗教性—船大工巻物の基礎的考察— | 小池 淳一 (国立歴史民俗博物館) |
| 5. 10:40-11:00 | 渋谷区所蔵の伝・食行身祿書簡 | 大谷 正幸 |
| 6. 11:05-11:25 | 琉球王朝における植物のシンボリズムと聖地 | 平良 直 (八洲学園大) |
| 7. 11:30-11:50 | 琉球風水の装置としての村獅子について | 鈴木 一馨 (東方研究会) |
| 8. 11:55-12:15 | 沖縄の御嶽と年中行事に関する—考察—南城市玉城を中心に— | ヒュエンドリン・ファン・ダー・フォルスト (皇學館大) |

【午後】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 13:15-13:35 | 仏教とカウンセリングの接点 | 友久 久雄 (龍大) |
| 2. 13:40-14:00 | 核燃料発電と仏教—新型動力炉命名をめぐる宗教と科学の言説— | 工藤 英勝 (曹洞宗宗務庁) |

パネル 大震災の問う物質と靈魂—日本仏教再評価の一環として—

代表者：戸田 游晏

14:10-16:10 初期ジャイナ教の生物観—靈性を共に生きる—

杉岡 信行 (近大)

バイオリージョンの視点から見た日本の風土と信仰

永原 順子 (高知工業高専)

崇り神としての放射能—仮面の「一神教」と祀りの手筈—

實川 幹朗 (姫路獨協大)

モノたちとの共生きと癒し—臨床と仏道の環境観—

戸田 游晏 (宇部フロンティア大)

コメンテータ：森岡 正芳 (神戸大)

司会：實川 幹朗 (姫路獨協大)

8日(土)

災害・宗教・支援③

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 無常のシンボリズムー震災から考えるー | 長崎 誠人 (叡山学院) |
| 2. 9:25- 9:45 | 震災死と宗教の役割ー四川・東日本の大地震を事例にー | 何 燕生 (郡山女子大) |
| 3. 9:50-10:10 | 災害時帰宅ステーションとしての寺院の可能性について | 関戸 堯海 (立正大) |
| 4. 10:15-10:35 | 弘化四年善光寺地震に学ぶこと | 小林 順彦 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 「羽田七福いなり」のおかれた土地環境と自然災害の関係 | 深田伊佐夫 (中央学術研究所) |
| 6. 11:05-11:25 | 祭礼行事を媒介とした復興支援のゆくえ | 板井 正斉 (皇學館大) |
| 7. 11:30-11:50 | イスラーム系NGO・HFによる東日本大震災支援活動 | 嶺崎 寛子 (愛知教育大) |
| 8. 11:55-12:15 | ポスト災害社会における宗教ースマトラの事例からー | 木村 敏明 (東北大) |
| 9. 12:20-12:40 | 霊場の意味付と顕在化する「違和感」ー災害後の熊野を事例にー | 天田 顕徳 (筑波大) |

【午後】

- パネル 公共空間における宗教的ケアのあり方ー「臨床宗教師」の可能性ー 代表者：高橋 原
- 14:00-16:00 ケアにおける宗教性再考 高橋 原 (東北大)
- 米国の病院チャプレンにみる公共空間での宗教的ケアの在り方 小西 達也 (爽秋会岡部医院)
- 医療現場の宗教者からみえてくる宗教的ケア 森田 敬史 (東北大)
- 被災地から見た「臨床宗教師」の可能性と課題 谷山 洋三 (東北大)
- コメンテーター：鈴木 岩弓 (東北大)
- 司会：高橋 原 (東北大)

9日(日)

宗教と社会①／災害・宗教・支援④

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 空想的社会主義と近代スピリチュアリズムのあいだ | 津城 寛文 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | インターネットにみる流行神ー中国の「受験の神」をめぐってー | 黄 緑萍 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 宗教教団によるSNS利用規制の是非について | 深水 顕真 (関東学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 政治権力と宗教権威 | 米井 輝圭 (昭和女子大) |
| 5. 10:40-11:00 | 協働表象(論)の基礎的考察 | 永岡 崇 (国際日本文化研究センター) |

【午後】

- | | | |
|----------------|---------------------|--------------|
| 1. 13:15-13:35 | 自然悪概念の宗教哲学的再解釈は可能か？ | 佐藤 啓介 (聖学院大) |
| 2. 13:40-14:00 | ハイデggerにおける自然災害の問題 | 田鍋 良臣 (京大) |

- パネル 東日本大震災後における(いわき市)と宗教 代表者：寺田 喜朗
- 14:10-16:10 地域構造と宗教分布ー被災・避難地域と新旧宗教の立地ー 星野 壮 (大正大)
- 現地の宗教者の意識と支援活動ー高野山真言宗僧侶を中心にー 齋藤 知明 (大正大)
- 伝統教団内の支援のネットワークー浄土宗の事例からー 小川 有閑 (国際宗教研究所)
- 新宗教の震災対応ー創価学会と天理教の取り組みを中心にー 寺田 喜朗 (大正大)
- コメンテーター：對馬 路人 (関西学院大)
- 司会：寺田 喜朗 (大正大)

8日(土)

キリスト教・宗教哲学②／災害・宗教・支援⑤

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------|
| 1. 9:00- 9:20 | キルケゴールにおける地域主義の問題 | 須藤 孝也 (一橋大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 呪詛と自己犠牲ーキルケゴール思想における祈りの本質ー | 中里 巧 (東洋大) |
| 3. 9:50-10:10 | ニーチェにおける社会性と虚栄心の問題 | 木原 英史 (大谷大) |
| 4. 10:15-10:35 | ルドルフ・シュタイナーのキリスト観 | 西井 美穂 (広島大) |
| 5. 10:40-11:00 | 二人称としての神ーマルティン・ブーバーの神概念ー | 田島 卓 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | ミシェル・アンリとキリスト教 | 古荘 匡義 (龍大) |
| 7. 11:30-11:50 | 理性と文化の関係についてーグローバリズム批判の視座を求めてー | 八巻 和彦 (早大) |

【午後】

パネル 災害の語りの宗教学 14:00-15:40 記紀が描く罪と災害 江戸時代の災害の語り 東日本大震災後の語り	代表者：松村 一男 平藤喜久子 (國學院大) 松村 一男 (和光大) 竹沢尚一郎 (国立民族学博物館) コメンテータ：深澤 英隆 (一橋大) 司会：松村 一男 (和光大)
--	--

9日(日)

巫者・霊信仰と宗教／グローバル化と宗教②

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | イタコたちの現在ー大和宗を中心にイタコの研究史的回顧と現状ー | 原 英子 (岩手県立大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 巫者の呼称に関するー考察ーワカとイタコを中心にー | 村上 晶 (筑波大) |
| 3. 9:50-10:10 | 大衆文化としての〈イタコ〉とオカルトブーム | 大道 晴香 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 宗教者の性格と役割について | 佐藤 憲昭 (駒大) |
| 5. 10:40-11:00 | 幽霊能における告白ーその類型と機能ー | 今泉 隆裕 (桐蔭横浜大) |
| 6. 11:05-11:25 | 祖霊を「作る」儀礼ーシヨナ族の祖霊信仰と憑依ー | 松平 勇二 (名大) |
| 7. 11:30-11:50 | 巫者の守護霊ー東アジアでの比較ー | 川上 新二 (岐阜市立女子短大) |

【午後】

パネル 日韓宗教文化のトランスナショナリティ 14:10-16:10 韓国における社会変動と日系新宗教の布教 韓国のメディアを通じてみる「倭色」宗教 在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会の日本宣教 朝鮮学校教員家族における祖先祭祀	代表者：櫻井 義秀 李 賢京 (日本学術振興会) 諸 点淑 (東西大) 中西 尋子 (関西学院大) 猪瀬 優理 (龍大) コメンテータ：田島 忠篤 (天使大) 司会：櫻井 義秀 (北大)
---	---

8日(土)

宗教と教育

【午前】

- | | |
|--|--------------------|
| 1. 9:00- 9:20 「梅小路」を通じて「宗教」を伝えるにはー現場からの考察ー | 太田 俊明 (西山浄土宗教学研究所) |
| 2. 9:25- 9:45 宗教的問い「何」・「何事」考ー宗教教育方法のデザインー | 小山 一乗 (駒大) |
| 3. 9:50-10:10 学校における瞑想実践ー小学校・中学校での実践とその評価ー | 得丸 定子 (上越教育大) |
| 4. 10:15-10:35 トルコの宗教教育とアレヴィー教育ーエスニシティとの関連でー | 佐島 隆 (大阪国際大) |
| 5. 10:40-11:00 ドイツにおける宗教科の歴史ー「他者」とのかかわりを読むー | 石川 智子 (立教大) |
| 6. 11:05-11:25 明治期・真宗大谷派における高等教育就学実態について | 江島 尚俊 (大正大) |
| 7. 11:30-11:50 日系アメリカ人と仏教教育ー戦前の浄土真宗を例にー | 本多 彩 (兵庫大) |
| 8. 11:55-12:15 新宗教教団の展開過程における「宗教境界」の更新 | 佐藤 洋 (東洋大) |

【午後】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| パネル アジアの宗教と教育 | 代表者：西尾 秀生 |
| 14:00-16:00 戒律規定と沙弥教育 | 龍口 明生 (龍大) |
| オーロピンドの教育論 | 北川 清仁 (近大) |
| 中国仏教の唱導 | 宮井 里佳 (埼玉工業大) |
| 日本の仏教教育 | 岩瀬真寿美 (名古屋産業大) |
| | コメンテーター・司会：西尾 秀生 (近大) |

9日(日)

アジアの宗教・宗教性

【午前】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 アランタ研究史黎明期 | 飯嶋 秀治 (九大) |
| 2. 9:25- 9:45 英国植民地期サラワクにおけるアダットの成文化 | 土佐美菜実 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 タイ上座仏教と国家 | 矢野 秀武 (駒大) |
| 4. 10:15-10:35 バッフアゾーンの子ベット仏教ーリメ運動の展開に焦点を当ててー | 別所 裕介 (広島大) |
| 5. 10:40-11:00 シェンラブ伝に於ける孔子の位置 | 津曲 真一 (東京理科大) |
| 6. 11:05-11:25 ナオジョテから見たパールシー・コミュニティ | 香月 法子 (中央大) |

【午後】

- | | |
|---|-------------|
| 1. 13:15-13:35 ドイツのヒンドゥー教ーシュトゥットガルト等での寺院調査からー | 山下 博司 (東北大) |
| 2. 13:40-14:00 ロバート・スミッソンのアースワーク | 中島和歌子 (東大) |

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| パネル 日本人の宗教性を問うー欧・米・韓・日の宗教事情を通してー | 代表者：藤 能成 |
| 14:10-16:10 韓国の宗教事情と日本人の宗教性 | 藤 能成 (龍大) |
| アメリカの宗教事情と日本人の宗教性 | 那須 英勝 (龍大) |
| ヨーロッパの宗教事情と日本人の宗教性 | 寺本 知正 (NCC 宗教研究所) |
| 寺院の役割と日本人の宗教性 | 長岡 岳澄 (中央仏教学院) |
| ビハーラ活動と日本人の宗教性 | 伊東 秀章 (浄土真宗本願寺派総合研究所) |
| | コメンテーター：原田 哲了 (龍大) |
| | 司会：藤 能成 (龍大) |

第14部会

(6号館2F) 621 教室

8日(土)

※研究発表はありません

9日(日)

宗教と社会②

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 宗教性の行動と社会貢献 | 濱田 陽 (帝京大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 宗教専門紙が報じる過疎問題—仏教・神道系新聞を手がかりに— | 冬月 律 (モラロジー研究所) |
| 3. 9:50-10:10 | 沖縄の米軍返還地における村落祭祀とコミュニティ再編 | 越智 郁乃 (京大) |
| 4. 10:15-10:35 | ソーシャルキャピタルとしての天理教里親活動 | 金子 珠理 (天理大) |
| 5. 10:40-11:00 | 「道の台」と天理教の女性 | 堀内みどり (天理大) |
| 6. 11:05-11:25 | 個の社会の和様化 | 川上 光代 |

【午後】

- | | | |
|----------------|------------------------------|--------------|
| 1. 13:15-13:35 | 現代都市生活における共存と神社の関わり | 黒崎 浩行 (國學院大) |
| 2. 13:40-14:00 | 知的障害者のグループホーム〈ラルシュ〉を支える倫理と実践 | 寺戸 淳子 (専修大) |

パネル	ポスト世俗主義と公共性	代表者:	藤本 龍児
14:10-16:10	総論 ポスト世俗主義と公共性		磯前 順一 (国際日本文化研究センター)
	欧米における世俗主義と公共性		藤本 龍児 (帝京大)
	植民地朝鮮における世俗主義と公共性		金 泰 勲 (立命館大)
	日本における世俗主義と公共性		島 蘭 進 (東大)
		コメンテータ:	荻田 真司 (國學院大)
		司会:	磯前 順一 (国際日本文化研究センター)

レジュメの作成と提出の注意

『宗教研究』への掲載は、発表を行い、9月9日午後2時までに「レジュメ（表紙と本文）の紙原稿」を提出された方に限ります。

必ず、25頁の「レジュメの表紙」・本文の順にホチキスでとめ、部会責任者にお渡し下さい。

【締切】 9月9日 午後2時 以後の提出、変更は、認められません。完全原稿を提出して下さい。

【枚数】 40字×40行以内 総文字数ではありません。
超過している場合は掲載できません。以下の書式をお守り下さい。

【書式】 縦書き 40字×40行 A4 横
文字サイズ：一律 10.5 ポイント 邦文のフォント：MS明朝

- ・ 1 頁目 表紙（発表題目、発表者名、欧文タイトル、発表者のローマ字表記）を入力
- ・ 2 頁目 本文 を入力

【本文】 邦文中の数字は、漢数字を用いる。常用漢字、現代仮名づかいを用いる。
注記、参考文献は、本文中に括弧で挿入して下さい。図表等の掲載はできません。

【欧文タイトル】 邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可。
英語——邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。
英語以外の言語——発表者が提出したタイトル通りに掲載します。

電子データの提出方法

紙原稿の他に、電子データも、ご提出下さい。

この場合も、必ず、9月9日午後2時までに、所定の表紙を付して、出力紙を提出して下さい。
メールによる電子データの送信のみでは、掲載不可です。

電子データ（表紙と本文）は、Eメールで送信して下さい。

送信先：日本宗教学会事務局 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

Windows のワード・太郎は添付ファイルで、それ以外はメールに貼り付けて、9月14日（金）までに、送信して下さい。 受付開始：8月15日

メールの件名は「レジュメ 発表者の御名前」として下さい。 例：レジュメ 鈴木花子

Eメールをお使いにならない方は、大会当日、紙原稿と一緒にCDまたはFDを提出して下さい。
氏名を明記して下さい。CD、FDは返却しません。（USBは受け付けません）

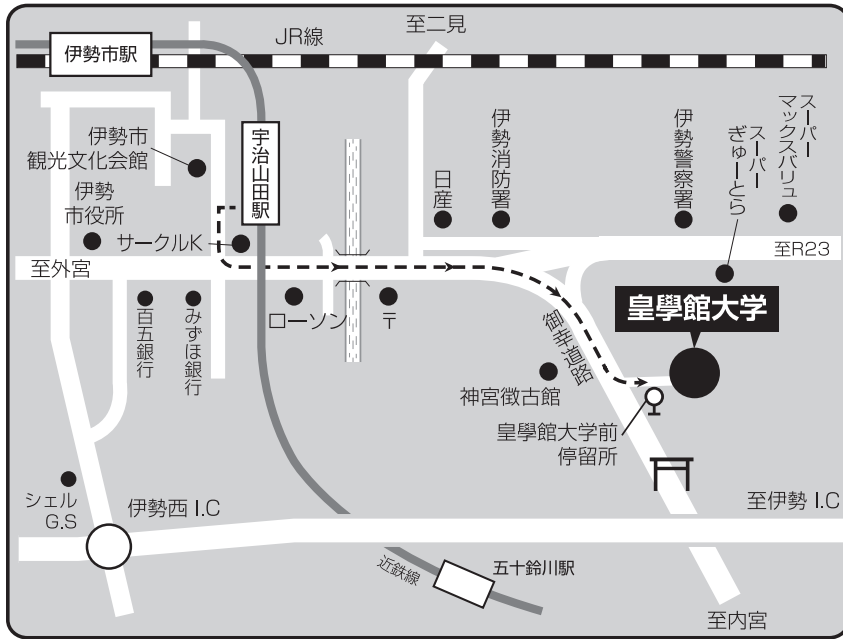
レジユメの表紙 (すべての項目に記入して下さい。)

発表題目	題目の変更は認められません。100文字以内で印刷してください。縦書き
発表者名	縦書き
欧文タイトル	邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可 手書きする場合は活字体。イタリックは下線で指示して下さい。
発表者名のローマ字表記	例：鈴木花子 → SUZUKI Hanako
電子データの提出について	以下に○をつけて下さい。 1 送信済み 2 9月14日までに送信

※ レジユメの表紙は、大会ホームページから、ワード版がダウンロードできます。

※ 特殊文字は、プリントアウトしたものに、赤字を入れて下さい。

皇學館大学アクセスマップ



※ 学会期間中は、宇治山田駅（近鉄）より下記ダイヤで無料シャトルバスを運行します（伊勢市駅は経由しません）。バスの乗り場については、大会HPをご覧ください。

無料シャトルバスダイヤ

9月7日(金)

時	宇治山田駅発		時	大学発	
12	00	30	17		55
13	00	30	18	25	
14	00	30	19		
			20		40

9月8日(土)

時	宇治山田駅発		時	大学発	
8		30 45	20	10 15 30	
9	00	15 30			
10	00	30			
11	00	30			

9月9日(日)

時	宇治山田駅発		時	大学発	
8		30 45	16	15 30 45	
9	00	15 30	17	00	
10	00	30			
11	00	30			

三重交通バス 伊勢市駅（JR・近鉄）または宇治山田駅（近鉄）より、内宮行（徴古館前経由）または宿浦行バス及び磯部バスセンター行バスに乗車（約10分）し、皇學館大学前下車。

徒歩 宇治山田駅より約25分。

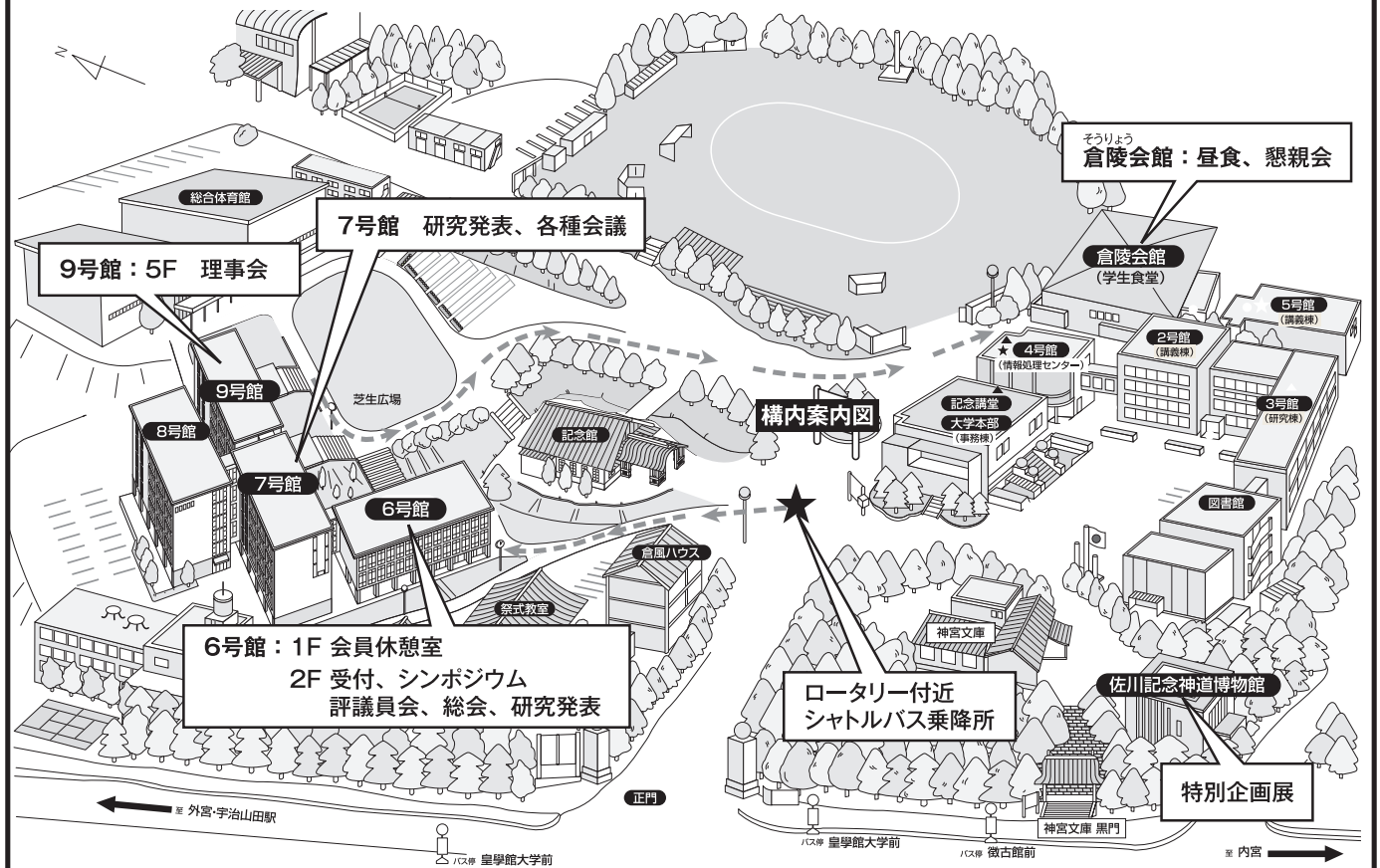
皇學館大学ホームページ 交通アクセスのご案内からもご覧いただけます。

<http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/about/p05.php>

大学構内案内図

昼食について

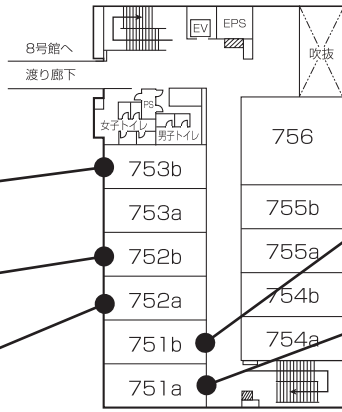
3日間とも倉陵会館1Fの食堂「U's kitchen」および2Fの食堂「い〜菜」が営業しておりますので、ご利用ください。



7号館

5
F

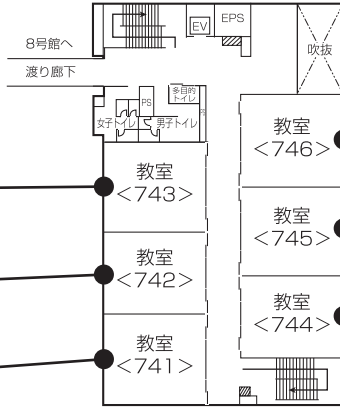
- 学会本部
- 情報化委員会
- 学会賞選考委員会



- 国際委員会
プログラム委員会
- 庶務委員会
編集委員会

4
F

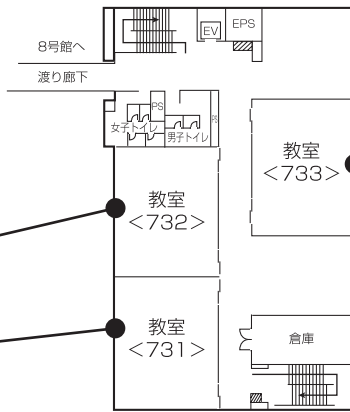
- 第8部会
- 第7部会
- 第6部会



- 第11部会
- 第10部会
- 第9部会

3
F

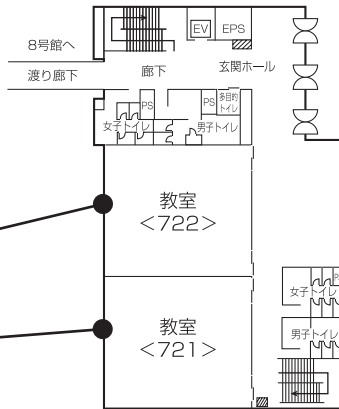
- 第4部会
- 第3部会



- 第5部会

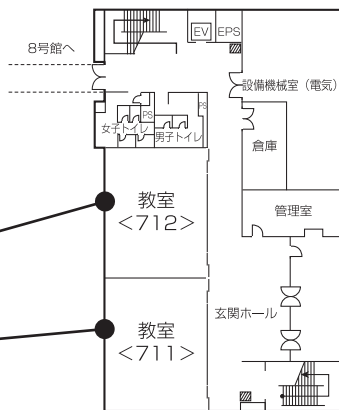
2
F

- 第13部会
- 第12部会



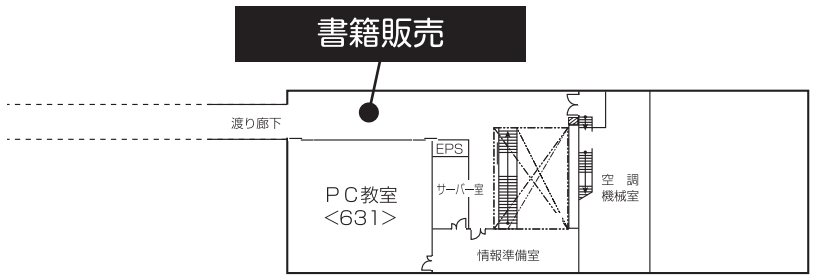
1
F

- 第2部会
- 第1部会

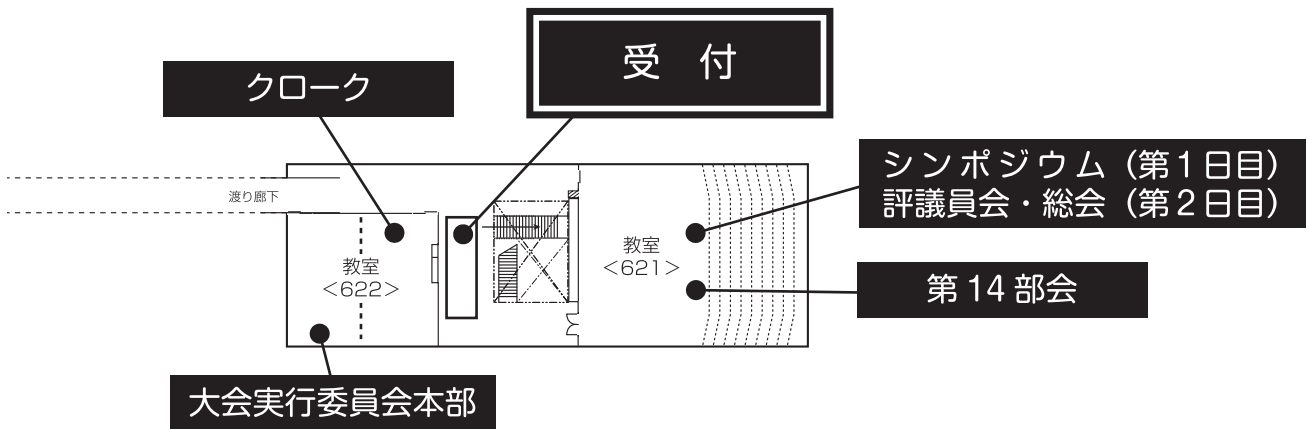




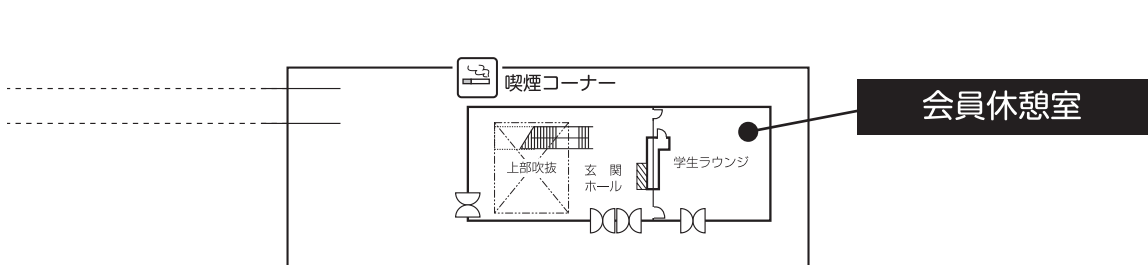
6号館



3
F



2
F



1
F

日本宗教学会
第 71 回学術大会実行委員会事務局

〒 516 - 8555 三重県伊勢市神田久志本町 1704
皇學館大学文学部神道学科研究室内

TEL&FAX : 0596(22)6455

E-mail : jars2012.kogakkan@gmail.com

HP : <http://jars2012.webdeki-blog.com/>